

## 8月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和6年8月27日（火）	場 所	市役所本庁 教育委員室
開催時間	16時30分 から 18時05分まで		
出席者	教育長	澤野 幸司	
	教育委員	宮田 靖、久世由美子、甲斐千尋、遠田真央	
	参 与	丸山真二、竹光俊司、佐藤健一郎、田崎俊久、田中政秀	

◎ 協議事項

◆延岡市の学校教育のあり方について（教育政策課）

- 教育政策課長及び教育政策係長より説明を行ったのち、協議を行った。

- ◎) 昨年度の総合教育会議の中でプールの話も出ていた。それも関連しながらということで今説明があったかと思う。ただ、初めて聞くような話で、非常に大きな話だと思う。委員会としてここに踏み込むのかどうかといったところにもなってくるかと思うので、事務局としてこういうふうに進めていってはどうかということで、今考えている内容についての説明だったわけだが、まずは質問があればお願いしたい。
- ◎) 小中学校における水泳の授業は必要なのか。
- ◎) 必要だと思う。やっぱり身を守るためにも、受けた方がいいんじゃないか。やっぱり体力向上とかいろんなことも必要じゃないか。
- ◎) シーズンは夏場だけ。7月、8月、9月、せいぜい使ってそれくらい。3ヶ月のために維持するのはものすごくお金がかかる。修理したり、水の料金も払わないといけない。A市では水を出しっぱなしで、校長先生が自腹で2百何万あったとか、水っていうのは非常に経費がかかる。そこあたりからやっぱり考えた方がいいんじゃないか。
- ◎) 今のB委員の意見はやっぱり経営者としての姿勢。コストに合っていないというか、そういった施設が学校にたくさんあることをご存知か。例えば小学校の家庭科室の稼働率はどれくらいかご存知か。A委員、どうか。
- ◎) 稼働率っていうのは、年間にどれくらい使うかっていう。そうなってくると非常に限られている。5年生、6年生が中心になって、調理をするのも、その中の何時間かなので、非常に少ない。
- ◎) 5、6年しか家庭科室を使わない。他の学年には家庭科という教科がな

いので、しかもその中で、家庭科室を使わなくても家庭科の授業ができるものもある。例えば、衣食住の衣のところあたりは、そんなになくても、住のところあたりもできる。調理室がないとできないのは、先ほど言った調理実習。では調理実習を毎回やっているかっていうと、そうじゃなくて学期に1回。となってくると、多分プールよりか、家庭科室の稼働率のほうが低い。ところが、学校にはそういった特別教室というものが、例えばC小にも全部ある。Dにもある。E小にもある。全部の学校にあるというのがこれまでの学校に対する考え方。高度経済成長の中では、やはりそうやって子どもたちが他に行ってというのは難しいので、全部学校の中にすべてがそろっているっていう考え方が学校施設であった。ところがこの人口減少化の中であって、B委員が言われるような考え方。これは税金。水泳の学習は必要だとしたときに、代替ができないかといったときの考えが先ほどの教育政策課がまとめている話で、もっと言えば、今話のあった学校施設の統廃合の中で、学校施設を地域の方がもっと活用してくださいよと。それと、公民館もいずれ古くなる。今、地域の公民館は地域の方たちがお金を出し合って、積み立てをして、リニューアル、これが今までの考え方だと思うが、いや、そばにある学校が公民館の機能を持ったときに、学校の施設を使ったらどうですかという話。

- ◎) 今年の夏って特に暑かった。夏休み1ヶ月家で過ごす子どもっていうのも結構いる。学校には今冷房が付いている。学校に子どもたちが行けるように、行けると思うが、家庭費の負担よりも、学校に来させて自主学習とか、そういうことをさせた方が、前向きな考え方だと思う。家にいれば、携帯をいじったり、YouTubeを見たり、もうそれがせいぜい。行く癖をつけるっていうのも、子どもたちにはいいんじゃないか、そこあたりまで開放してもいいんじゃないかなって思う。プールはやっぱり人が要る。監視員っていうことになって、もし水の事故があったらどうするのかとか、そういう責任問題になってしまうから、やり手も少ないだろうと思う。本当にこういう学習面で、その科目が必要なのか、必要でないのか、やっぱり今の時代に合った、効率的な考え方を持っておかないと、学校経営って大変だと思う。例えば、2、3人の小規模でも、学校がそこにあるから、先生がいらないといけないようになる。それをまとめたら、地域の人たちが、その学校を潰すなって言って、地域の人たちがいろいろ言ったりする、そういうのもある。そこあたりの、やっぱり行政っていうか、持っていき方を今からは考える必要があるんじゃないか。経費を使って駄目なものは、やっぱり経営的には駄目。赤字は出すものではない。ここをいかに減らすかっていうことを考えていく必要性が今の教育にもあるんじゃないかと思う。

◎) 昔からプールとか、今全部学校にそういう家庭科室があったり、音楽室はもっと何回も使うと思うが、そういうのがあったからこそ、そういうふうになってきたわけである。今になって、施設が古くなったり、人数が少なくなったりして、どうなのかっていうのは、本当だったらもっと早めにそういうのは分かり出したら話し合いをするべきだったと思う。でも、今困り出してやっているの、私もそういうプールとか、そういうものは専門分野の方がいいと思う。そこで授業ができるんだったら。でも、今ここ延岡を考えると、2つしか施設がない。そういうのに全部が行くっていうことはできないので、行けるところっていうか、ここはどうしても、先生たちも少ないし、プールに何回も水を入れたりいろいろするのも大変なので、そういう人たちからだんだん行って、それがうまく稼働していくと、専門分野にお任せしましようというふうになっていくんだらうなと思っている。昔からプールっていうのは、我々の小さいときから学校にプールはある。そこでやっと泳げるようになる。泳げるようになったら、例えば、専門分野でやっていこうとか、今はどうか知らないが、学校の先生などには50m泳げないと先生になれないっていう時があった。そういうので、「すみません。1週間で泳げるようにしてください。」って、そうやって一生懸命になって大学の試験を受けて通るか通らないかっていうのもあったわけである。けどそういうので、今いろんなものが、もう手狭っていうより、何か詰まってきているような気がする。何とか今解決しないと駄目だよっていう時期になっているので、そういうのでプールは大事ですかって言う前に、なぜ必要だったのかなっていうことから入っていく。それで、やっぱり身を守るために必要。水泳っていうのは、競泳選手になるとか何とかいうより、まず身を守るためっていうことから始まっていった。だから、そういうのが必要ならばやっぱりやろうと。そしてだんだんこうやって、今になって手狭になってきて、先生を指導する人もいない。じゃあ専門分野でって、もっと早くやるべきだったんじゃないかなと私は思うが、そういうふうになってきたのが今だらうなっていう気がする。だからそういうふうには、やっぱりプールが必要というか、やっぱり泳げるようになる、そういう水泳っていうのは必要じゃないかなと。海外では並じゃないくらい水難事故の対応を指導する。小さい子どもをボンッと投げてから、ここはまだまだやさしいぐらいであって、そういうことから、やっぱり自分の身を守るっていうのを教えるっていうのは、ものすごくやっていた。だから、今、そういうことで、民間でやろうというの、私は本当にいいことだらうなあとと思った。

◎) 水泳のことが今話題になっているが、それ以外のところで、先ほど学校のこういった教育施設のあり方について、A委員いかがか。

- ◎) ここで提案されているのが「未来へつながる教育環境づくり」。やはり、子どもの数は当然少なくなってきた。社会も急激に変化してきた、もう以前と比べても、指導の仕方かなり変わってきているし、現場的なものも、いろんな部分で変わってきている。環境的なものも。その1つで、やっぱり施設も何十年もたって古くなってきた。では本当にこれから少なくなってきた子どもたちの未来を考えたときに、どういった教育環境が必要なかなあっていうことを、本当に今考える時なのかなあっていう感じはする。また部活動のことも書いてあるが、そういったような課題をしっかりと検討していきながら、本当に必要なものを必要だとして作っていく。そうでない部分は、他に地域力を加えてやるとかいうような部分をしっかりと考えていきながら、より良い方法を見つけていく必要があるのかなと思う。だから、ここに書いてある部分、提案されている部分ってというのは、どれも非常に大切なことであって、今後考えていけないといけないということばかりで、難しいなという部分もあるが、でもそのところはやはり、子どもたちの未来へつながるっていうことをしっかりと踏まえた上で、本当に厳しい結果を出さなきゃいけない部分もあるんじゃないかなと思う。
- ◎) 今、A委員が言われたが、これはあえて「延岡市学校教育環境づくり」になっていない。だから「教育」ってとらえているからこそ、社会教育施設である公民館だとか、図書館だとか、そういったことも含めて、やはり教育というのは学校の子たちだけじゃない。地域の生涯学習という意味での「教育」もあるので、これを持続可能にするために、大きくとらえましょうという意味でのこのタイトルであるというふうな理解でよいか。
- ⇒) その通りである。
- ◎) この視点1のところ、「連携・協働し」っていうのがある。今まではどっちかっていうと、協議会なり市なりが中心になって支援をしていくっていう部分があったが、もう今からの時代はそういう支援だけじゃなくて、こういう地域とかいろんなところを踏まえた連携・協働していきっていくようなスタンスが非常に大切なんじゃないかと。でない、やっていけないんじゃないかなっていう気がする。
- ◎) B委員がさっき言われた子どもたちの夏休み期間中の居場所づくりを、では学校は施設を開放するが、先生たちでやってくださいってなってくると、またこれは多分うまくいかないだろうが、地域の方たちに、それこそコミュニティスクールの中で、そういう居場所づくりを考えていきたいと思いますという話になってくると、そういう方達が交代で、場所は学校でというふうなところになるかと思う。
- ◎) 年を重ねてからよく考えることは、役に立ちたいということ。地域の人、

年配の方ってみんな役に立ちたい。地域連携、そういうところを活用する  
といいかもしれない。やっぱり教育っていうのは、しっかりとした柱を作  
ってやっていかないと間違える可能性があると思う。

- ◎) C委員はこういうスキームで今後の教育環境を作っていこうといったと  
きに、何か疑問や感想などないか。
- ◎) 未来へつながるってある。多分未来って予想できない気がする。今、当  
たり前にみんな携帯を使っているが、それってここ10年、15年ぐらいで、  
スマートフォンがすごく進化して、今後の進化はもっと凄まじいものだと  
思う。私としては個人個人がその状況にうまく柔軟に対応できるようにな  
るしかないと思って、そういう未来をイメージして作っていくのがいいん  
じゃないかなと思う。結構、それぞれが尊重できるような形になればいい  
かなっていう、親としてはそう思う。プール、水泳はあったほうがいいか  
なと思うが、その民間ツール。例えば温水だったら冬もできる。そういう  
のもいいかなあと思う。1年中出来て、民間の方も経営もちょっと助けに  
もなるだろうし。学校で持っているところは学校で持って、とりあえずは  
全部がその民間を使うんじゃなくて、自分のところでできるところは自  
分たちでやって、今改修が必要なところとかは、できるだけそこにお金を  
かけずに、民間を利用してやっていけばと。それで徐々にもっと子どもた  
ちが減ってきて、プールも古くなってきたら、全学校が民間プールを利用  
できるようになるのかなと思う。
- ◎) 多分、今C委員が言われたように、温水なので年間通じて使えるので、  
今だと水泳の授業って屋外なので夏季休業に入る前にしかできないが、カ  
リキュラム自体が今度は変わってくる。例えば、冬場にやりましょうとか  
なってくると、今まで夏にやっていたことを冬にするので、その夏に何を  
するかとか、カリキュラム自体が変わってくる話なので、これは結構大き  
な話になってくる。これをじゃあ飛び飛びで月に1回やったから効果が上  
がるかという、なかなかそうはいかない。やっぱりある程度短期集中で  
やった方が効果も上がるだろうから。ペーパーで見ると簡単な話だが、で  
も結構議論はしないといけない。そういうことを、我々だけで考えるんじ  
ゃなくて、こういう全体検討会議や個別の会議だとか、大筋はこの総合教  
育会議と定例教育委員会の我々で流れは作るにしても、そういったことで  
やっていきたいと思いますといったスキームである。こういった大きな形で、こ  
ういうスキームで考えていくということ自体には皆さん同意いただける  
か。個別のことは、やってみながらいろいろ出てくるだろう。手始めとし  
ては、来年、これはモデル校なので、全部の学校を一気にいくっていう話  
ではないし、多分、全部の学校を民間に委託するのはまず無理。キャパ的  
に無理、D委員が言われた通り無理なので、色分けすることになる。例え

ば、F小とかG小とかH小みたいに人数の多いところは、民間委託すると、かえって非効率になってくるので難しい。そういうところはプールは残さざるを得ないと。ところがそうじゃないところをどうするかといったときに、もうそろそろプールを改修しないといけないが、改修するよりか民間を使った方がっていうふうに色分けをしていかないといけない。三北については、今度は移動に時間がかかり過ぎて難しいということにもなってくるだろうから、この色分けをしながら進めていかないといけない。そのためにこういう個別の検討会議が必要になってくるんだらうなあと思っている。大筋としてはこのポンチ絵にあるような流れ、スキームで考えていく。次年度に向けてはこのモデル校による民間プール活用を、先ほど、今事業計画を考えているという話があった。これは最終的に予算がかかることなので、市長がOKを出して、議会に認めてもらわないとできない話だが、我々としてはこういった方向、次年度に向けては、まず手始めにやっていくということでもよろしいか。(委員了承) それから、その他のところで、図書館のあり方とか調理場のあり方というものがあるが、この調理場のあり方については、具体的なものがあるのか伺いたい。

⇒) 具体的に進んでいるものは何も無いが、イメージとしては、例えば食の安全の部分のためには一括でとか、防災上の観点から1ヶ所ですとか、そういったものが考えられる。

◎) 皆さんが小学校の時は自校式。学校で調理をして、そして学校で温かいものが出て、匂いもしてということだった。今、延岡市は親子方式という形で、調理場があって、親である調理場で作って子の学校に運ぶという形。ところが、親子方式でやるその親の調理場も結構やっぱり老朽化してきている。これを全部賄うとなってくると、やはり結構なコストもかかる。今は直営でやっているところと、民間に委託して調理してもらっているところがある。こういったものが、例えば全部じゃないにしても、旧延岡市のところだけでも一括でできるのであれば、それだけ、より衛生的な環境でできる。しかも、これを例えば、防災上強いところに建設が可能であれば、例えば大きな災害が起きたときに、食の提供が、例えば子どもたちだけではなくて、市民に対して食の提供ができるような付加価値も求められるし、例えば、そういうセンターがしっかり守られていれば、学校再開も比較的早く進められる、食の提供ができるといったこともあって、これもどこかのタイミングで、このセンター化というのはまた考えていくことも必要になってくるかもしれないというところ。だから、非常にものすごくたくさん、いろんな課題もあるし、可能性もあるというのが、この我々が所管している教育環境の現状である。全部をいっぺんにどんどんとは、とてもじゃないが予算がかかるのでできない。だからどこから着手していくか

といったところあたりを、先ほどのスキームを使いながらまずはこれだろうという議論をやっていって。これは予算が伴うので、当然市長と一緒に話すので、総合教育会議でっていう話になってくる。今日はさらっと説明してもらったが、やり出すと簡単ではない内容である。

- ◎) やっぱり時代は変わっている。過去のことよりも、今から先をっていうのを、やっぱりこの将来、未来に繋がっていくことを考えてあげたほうがいいと思う。
- ◎) C委員が言われたように、なかなか予測不能な未来だが、5年後の未来、予測可能な未来を考えたときにどうするかっていうこともある程度考えないといけないんだろうなと思う。
- ◎) こうやって見ると、民間との協力が結構大事だと。
- ◎) 本当に大事である。これをやろうと思っても、それを受けてもらえる民間がないのであれば今度は委託ができない話なので、さっきのプールは、D委員が言われる通り2つしかないのに、民間委託全部はできないわけである。でもそういうふうを受け皿ができてくると、今まで県外に行っていた人たちが、残ってやろうかという雰囲気になってくれば、それはそれでまた悪い話ではないのかなど思ったりもする。これについては、これから先も議論するわけだが、我々としてはこういった方向性で今後、教育環境のあり方について考えていくということで、今日のところはよろしいか。(委員了承) これについて、今後は具体的に、また総合教育会議の中で議論していくと。今年、市長と話をするとところによると、まだ決定ではないが、先ほどの学力とこのポンチ絵のことを含めてやっていくっていう話になってくると思われるが、またいろいろ、それぞれでお考えいただけるとありがたいなと思っている。

## ◎ その他

### ◆延岡城三階櫓跡発掘調査結果報告及び市民説明会の開催について（文化財・市史編さん課）

- 文化財・市史編さん課長より、延岡城三階櫓跡発掘調査結果と市民説明会について報告した。

- ◎) この場所について、以前は何があったところだったのか。
- ⇒) 後藤勇吉の銅像があった場所で、それを移転した。
- ◎) あそこの下に実はこんな希少なもの、三階櫓の礎石などが見つかった。ものすごく貴重な資料が見つかったということ。
- ◎) これは、ありそうだったから移動させたのか。
- ◎) もちろんそこに三階櫓があったというのは分かっていたらしいが、実際に

発掘調査はしていなかったもので、今回これで明らかになってくる。延岡城・内藤記念博物館の入口を入ったら木の模型がある。あれが三階櫓だろうと言われているらしいが、もしかすると、あれが本当にそうなのかどうなのかも、こういった縮尺なんかを利用して検証されて、こんなものが見えてくると、あれが延岡城の三階櫓だったということが証明されることになるきっかけになるかもしれないということ。私も先日部長と一緒に行って見たが感動した。ぜひ見にいってほしいが、見学できる日時についてもう一度説明をお願いしたい。

⇒) 9月7日(土)、8日(日)。時間は午前が9時から12時。午後が13時から15時。

◆9月定例教育委員会の日程について(教育政策課)

- 9月定例教育委員会については、9月25日(水)の13時30分から、災害対策本部室で開催する。

◎ 閉 会

澤野教育長が閉会を宣し、終了した。(18:05)